

松 葉 広 報

第166号
(2023[令和5]年度 最終号)

発行 自治会法人松葉町自治会
編集 松葉町自治会広報部
題字 石井志治氏
印刷所 プリンティング山口

会員世帯数 734
賛助会員数 23



(3月1日現在)

～令和5年度の自治会活動を振り返る～



会長 馬場 吉博 (4組)

事業計画を具体化するにあたり、人が集う行事を開催すべきかどうか悩んでいた最中の5月8日、国から新型コロナウイルス感染症の第5類移行宣言がなされたことから、感染再拡大なら迷うことなく中止することを前提に、感染防止対策を十分に取らなければならないと決定し、皆さんの多大なるご理解とご協力をいただいで実施できたことを深く御礼申し上げます。

広報松葉令和5年度最終号では、今年度主要事業の取組結果について「私自身の振り返り」という視点で寄稿させていただきます。
課題解決に向けた取組について

「組の存続が危機的状況に向かっている」ことを最も重要な課題と位置づけ、自治会組織等検討委員会を立ち上げ、課題解決のための「組や本部のあり方」を考える活動を開始しました。

発足した委員会は、多様な考え方をぶつけ合うことにより、会員間のジェネレーションギャップを埋める提言が出されることを期待し、世代、性別、所属する組等のバランスを考慮して本部が推薦した12名と、課題解決に協力したいと考える公募者3名の計15名で、第1回を7月2日に開催、以降、現在まで6回の会議を持ち、

- ・ これからの自治会のあり方
 - ・ 自治会における組の役割
 - ・ 本部役員と組役員の役割分担
- 等のテーマが話し合われ、今度の定期総会では、提言の骨子をご報告できる見込みです。
また、この取り組みを下支えする作業として
- ① 会員名簿整備 (最新化)
 - ② 意見交換を通じた組の現状把握
 - ③ 会員加入促進
- を挙げましたが、①、③は予定通りにできなかった

ものの、②については定例役員会の後半で4グループに分かれ、組長と各専門部長が集まって意見交換を行うことを定例化し、組の課題や、実施した行事の感想等を話し合うことで、組長間のつながりを深めるきっかけづくりができたと感じています。
①、③は「予定通りにできなかった」と書きましたが、昨年3月1日から本年1月1日までの間で、新加入7世帯に対して退会34世帯となっており、もともとスピード感をもって行動しないといけない！と痛感しているところです。

本年度の重点活動について
内容についての具体的な振り返りは各専門部長に委ねますが、ひとつだけ、近い将来の準備につながる本年度の活動成果について述べさせていただきます。
元旦の夕刻、能登半島沖を震源とする地震が発生し、大きな被害をもたらしました。松葉町が津波被害に遭うことはないと思いますが、家屋の多数倒壊や広域火災等は十分にあり得ます。

突然の大災害には、日頃の備えと、助け合いができる隣近所つながり(絆)が大事だと思います。日頃の備えは、防災訓練等を通じて蓄積することができず、隣近所つながりは、皆さん自身が意識して行動しなければつくれません。
先般選んだあいさつ運動標語優秀作品、これを活用したあいさつ運動の推進が、つながりづくりの一助になると思います。

「防災にみんなで協力し合える街・松葉町」にすべく、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

「あいさつ運動標語」優秀作品

あいさつは心のとびらひらくカギ	(23組)	菊島和枝さん
挨拶で今日も明るい松葉町	(7組)	大田正雄さん
はじめてみよう笑顔のあいさつ私から	(19組)	篠宮さつきさん
あいさつはすればするほどつながれる	(9組)	Ayacatさん
あいさつでみんなの仲を深めよう	(々)	
一人だけあいさつしても意味はない	(々)	

令和5年度定期総会は3月24日(日)10:00～陽光台小学校体育館で行います。

特集1 ～年始恒例の「どんど焼き」が行われました～



体育部長 金 慶一（3組）

1月14日、雲一つない青空の下、新年恒例のどんど焼きが開催されました。

新型コロナウイルス感染症蔓延中は、家内安全、無病息災のための儀式に徹し、飲食物の提供等を中止していましたが、第5類に移行した今年は、婦人会さんの豚汁、育成会さんのポップコーンやビンゴ、本部によるお汁粉や振舞い酒などを復活し、参加された多くの皆さんが、新年の歓びを笑顔で分かち合っておられました。

体育部が担当したもう一つの主要事業大運動会は、新型コロナウイルス感染症によってもたらされた地域の自粛ムードを払拭すべく、自由参加のレクリエーションとして開催、組長の負担感を軽減することを目的に、従来の組對抗競技を、気の合う仲間で作ったチーム対抗競技とし、実施時間も午前中いっぱいとなりました。

競技内容や時間配分など、予定通りにはできませんが、次年度の改善テーマとなった項目もあります。子どもたちを中心に、多くの皆さんが楽しまれ、親睦と連帯感を育むという観点で、従来の運動会に引けを取らないイベントができたと思いません。

特集2 ～「ごみと資源の勉強会」を開催しました～



環境整備部長 高橋 啓太（7組）

昨年11月12日、麻溝台環境事業所の講師を自治会館に招き、組長、本部、関連団体を中心に40名ほどが参加して、分別サンプルや説明パネルを見ながら、ごみの出し方・減量化・資源化を勉強しました。参加者からは

・分別することの理解が深まった
・ごみを無駄にしないようにしたい
等の感想をいただき、ごみに対する意識の変化が図られたようで、このような勉強会を繰り返し開催して多くの人に理解してもらいたいことが大切だと実感しました。

相模原市のごみ最終処分場は今のままだと14年後には満杯になる予測で、次の最終処分場決定に多くの課題を抱えている状況、そんな中、家庭から出るごみを1人1日100g減らすと今の処分場があと4～6年長く使えるそうです。

ごみの中にあるリサイクルできるものは資源です。分別することでごみの量も減らせます。皆さんのごみ分別行動で生み出された資源を毎週火曜の資源回収に出すことは自治会の活動資金を生み出すだけでなく、相模原の未来も支えます。ご協力のほど、よろしく願います。

その他専門部の活動結果報告

文化部長 沢口 禎則（1組）

持続可能な納涼大会の企画・検討・実施を指針とし、昨年立ち上げた検討小委員会の答申を今年度の実行委員会で具現化、会員さんの多大なるご理解とご協力を得て4年ぶりの納涼大会を開催できました。

酷暑とコロナ、相容れない二つの対策を講じながら開催した大会ではありましたが、

・元氣よく一生懸命山車を引く子どもたちの姿、
・街じゅうに貼られた子どもたちが書いたポスター、
・会場のまわりを飾る子どもたちが作った行灯
等、開催できてよかったなとつくづく感じています。

地球温暖化に伴う酷暑対策、自治会本部、実行委員、組役員さんの役割分担等、まだまだ見直すべき内容がありますが、当年度やってみてわかった課題が次年度の大会で改善されるようなプロセスが持続的に実行され、その年の世間の動向や潮流にあつた納涼大会ができればよいと思います。

防犯防災部長 清水 信夫（16組）

今年度の事業計画で挙げた重点活動の取組結果は次の通りです。

自主防災意識の高揚

6月に救護・消火・備蓄をテーマにした防災訓練とスマホアプリを用いた安否確認訓練、9月に黄色の小旗掲出訓練を実施しました。

防災器具・備品の整備充実

ヘルメット、救助・救援要請用ホイッスル、消火器を追加するとともに、新たな備品として、災害時の電源確保のため、ポータブル充電器と小型ソーラーパネルを購入し、自治会館に配備しました。

防犯意識の高揚

防犯・交通安全に関する情報を、回覧やスマホ

アプリを用いて継続的に配信しました。

元旦に発生した能登半島地震を見てわかるとおり、大規模災害発生時に行政がすぐに全ての住民を支援・救援することは不可能です。このような現実をふまえ、自治会備蓄品の充実も必要ですが、各家庭での水や食料等の備蓄がもっと大切です。また、いざというときに助け合える風土づくりは、防災訓練だけでなく、レクリエーション等、自治会が企画する活動すべてに共通する目的です。助け合いができる習慣を楽しみながら身につけることができる活動を、今後提案し続けていこうと思います。

情報宣伝部長 齋藤 久二(14組)

情宣活動を通じて笑顔あふれる明るい街松葉町のきっかけを作りますを目標に掲げた1年でした。情報宣伝部は月2回、関連団体、市、学校等、約40の発信元からくる回覧、ポスター、全戸配布物を、組毎の構成員数に合わせて振り分け、副部長さんの協力を得て各組に配布、今年はスマホアプリmy自治会に掲載する電子回覧用書面も加えて、情報発信を行うことができ、副部長、各組長さんには心から感謝申し上げます。

スマホアプリは、回覧物のタイムリーな閲覧はもちろん、再確認にも役立ちます。一部の組では回覧に時間がかかっている等の問題もあるので、多くの会員さんにこのアプリを登録してもらいたいです。個人テーマとしてのチョット立ち話運動、隣近所を皮切りに笑顔であいさつ、笑顔で返すの繰り返しでコミュニケーションを図り、多くの方々に接してきましたが、まだまだやり切っていないので、継続テーマとして、可能な限りやり続けたいと思います。

福祉厚生部長 天明 文恒(14組)

福祉厚生部長に就いて2年め、先輩役員さん方への指導・協力を賜りつつ、1年目で培った経験則を加え、今日まで何とかやってくることができました。

敬老の集い

今年度は、イベント参加型の集いには参加できない方もおり、市から助成金を受けている関係もあるので、公平性を重視したいという考えから、対象者全員にお祝い品をお届けしました。

今年度は自分自身も仲間入り、思いを共有できる年齢になりますので、今まで以上に期待に応えられる集いになればと思います。

新生児のお祝い

今年度新設された制度、現時点までの申請者数は半年前と同じ2件、自分としてはPR不足かなと感じています。ご自身が申請を忘れている方はもちろん、隣近所でお子様生まれた世帯をご存じの方はひと声かけてみてください。

会館管理部長 磯崎 常明(19組)

会館管理業務に就いてまもなく1年、取り組んだ主な内容は次の通りです。
自ら気づき、自ら実行したこと

- ・会館のエアコン消し忘れが気になったので、一定の時間が経つと自動的にOFFになるリモコンをネット上で探して取り付けました。
- ・会館のトイレ照明消し忘れも気になったので、人感センサー付き照明を購入して取り替えました。
- ・会館の階段すべり止めが劣化し、役に立っていないと感じたので、新品を購入し張り替えました。

自ら考え、提案・実現できたこと
・これまでは自治会館に行かないとわからなかった会館会議室の予約状況を、広報部で管理している地区連HP松葉町ページと連携し、スマホやパソコンで見ることができるようになりました。

会員は会館の会議室を無料で利用できます。現状、会議室の予約には利用申込書(紙)を提出する必要がありますが、気の合う仲間どうしの集まり等、より多くの人に気軽に利用してもらいたいので、近い将来、予約状況を見るだけでなく、予

約もスマホやパソコンでできるようにしたいと思っています。システムづくりに協力してくれる方、連絡ください。

広報部長 中村 勇二(6組)

今年度後半は、

- ① スマホアプリmy自治会の有効性見極め
- ② 地区連HP松葉町ページの活用環境整備
- ③ 今後の自治会DXの方向性提案

を活動指針として取り組み、月2回の電子回覧配信、その合間での行事の様子や緊急連絡を配信する作業を広報副部長と分担し、一定のルーチンワークとして行えるようになりました。

アプリの使い勝手も、提供元の大東建託さんのおかげでとてもよくなりました。

残った課題は、構築したインフラが今後の自治会活動で有効に活用できるかです。スマホアプリの登録者数、年度初めは74、いろいろな機会を通じて登録のお願いをしました。現時点は94、全世帯数から見れば一握りの人にしか利用されていません。スマホやパソコンで、タイムリーに・見たい時に回覧を見ることができ、大した内容ではないかも知れませんが、従来の紙回覧に比べれば画期的な事です。
今一度、利用を検討してください。

編集後記

令和5年度の広報松葉は、定期総会で承認していただいた事業計画について、
・初号で取組所信表明
・中間号で経過報告
・最終号で結果報告と反省・次年度への引継ぎという構成とさせていただきます。
記事の元ネタ提供、内容チェック等にご協力いただいた本部役員の方々、短納期の製本にご尽力いただいたプリンティング山口様に深く感謝申し上げます。

松葉町のデジタルコンテンツをご活用ください

ホームページ



光が丘地区連ホームページ内にある松葉町自治会ページのコンテンツを紹介します。

【掲示板】

- ・毎月1、15日に配布が開始される回覧の電子版をタイムリーに閲覧できます。
- ・直近に開催されたイベントの紹介記事がタイムリーに閲覧できます。
- ・その他の臨時情報も掲載されます。

【会館情報】

- ・会館会議室の空き状況が確認できます。

【その他】

- ・過去4か月分の回覧をまとめた電子版が閲覧できます。
- ・本部へのメール問合せができます。

HPはこちら



スマホアプリ



スマホアプリMy自治会でできることを紹介します。

【回覧版】

- ・毎月1、15日の回覧配布開始と同時にスマホにプッシュ通知が入り、回覧の電子版をリアルタイムで閲覧できます。
- ・今年の防災訓練では、安否確認を試験的に行いました。

【集金】【アンケート】

- ・今は開示していませんが、登録者が増えれば、自治会費の自動集金などもできるようになる可能性もあります。

ホームページにインストールマニュアルを掲載しています。ぜひ登録してください。